



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2010
5月1日号120
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

花冷え



副会長 遊 佐 烈

4月に入り新芽がふくらみ、そして小学校へ通うランドセルに背負われた新一年生の子供たち。毎年の光景ではあるが何故か「今年こそは」と何時も思う。

横浜での総合学術大会は桜満開の大会となり、発表会場の外でも汗をかく位の陽気であった。春爛漫とは良く言ったものである。心もなぜかウキウキとし、やっと冬の寒さから解放される喜びを感じる。

福島に帰って来るとまだ桜の蕾は固く、ほんの2～3輪の桜が咲いているだけ。東北はまだ冬からは抜けきっていないようだ。ここ数日温かい日が続き、桜の蕾も一気に膨らみ花を咲かせ始めたら、寒い！雪だ！また冬に逆戻り...

この桜が咲く頃に寒くなったりする事を「花冷え」というが、辞書で調べてみると「桜が咲く頃、陽気が定まらず、一時的に寒くなること。」とある。しかし自然は何時までも花冷えが続く訳では無く必ず春が訪れ、北の地にも桜が満開になる時は来る。

今年、診療報酬改定が行われ質の高いがん治療等に対する評価として、画像誘導放射線治療加算の新設や外傷全身CTの新設が行われ、全体的に治療分野での増点が目立つ。一方CTにおいては16列以上か未満で850点が900点に増えるか820点に減額されるかに分かれた。MRに関しても1.5T以上であれば1300点が1330点に増点されるがそれ以下は1080点から1000点に減額となる。平成22年度の診療報酬改定では診療報酬本体で1.55%のプラスだが薬価等が1.36%のマイナスとなるため全体で見れば10年ぶりであるが0.19%のプラス改定になったとの報告を受けた。

重点課題として救急・産科・小児・外科等の医療の再建や、病院勤務医の負担軽減、更に多職種からなるチーム医療の評価が上げられた。

患者さんの医療費の負担は増えるが、チーム医療が患者さんへのきめ細やかな医療に繋がるものとして期待しているし、そうなる為には我々放射線技師も個々にレベルアップを行わねばならない。今年も福島県放射線技師会は県内医療に貢献するため放射線技師の資質の向上を目的として事業を行っていくと鈴木会長も述べており、そのための研修会や講演会等を会員は大いに利用して頂きたい。また各支部が行う健康祭りや原子力防災訓練等にも積極的に参加し、放射線技師の姿を県民に知って貰えるようにアピールして行かなければならない。

しかし、今回の診療報酬改定は全ての病院でプラスになる訳では無く減収になる病院も多い。全ての医療機関が患者さんにとって本当に安心出来るチーム医療を提供出来る環境になるためには、経営的に長く寒い冬が続くのではなく、希望の湧き上がるような春が待ち遠しいが、それにはまた2年待たねばならないのか。それこそ花冷えの状態であって欲しいものである。

平成21年度 第5回理事会議事録

日 時：平成22年4月2日(金)午後2時～

場 所：福島医科大学附属病院放射線部
カンファランス室

出席者：鈴木会長、斎藤・遊佐副会長、
白川・佐藤(政)・新里・渡辺(和)・栗田・
渡部(育)・菅野・佐藤(靖)・佐藤(勝)・
嶋田・今野(英) 理事、事務局阿部・伊藤

欠席者：今野(広)・山田・堀江理事

議長に遊佐副会長、議事録作成人に今野(英)を選び
議事に入る。

議 題

1) 平成21年度事業進捗状況、会計報告

鈴木会長より、平成21年度事業進捗状況及び会計報告の説明があり、会務報告に関して各支部および各委員会へ追記事項の確認と会計報告は3月31日が締めのため監査を行ってから決算報告としたことであった。

伊藤事務局長より、支部助成金に関して福島県報告作成のためには、支部助成金の項目は無くなるので支部の用途を本部の方に振り替えて決算報告とする事が望ましいとの意見があり承認された。

鈴木会長より、会報No46の予算が前号の約半額で収まったので、学術の方へ学術大会時に使用するPCの接続機器と大会及び各研究会で使用しているバーコードリーダーを各支部へ追加購入したい意見があり承認された。

2) 平成22年度福島県放射線技師会総会について

鈴木会長より、総会資料にのっとり各項目の確認と説明を行った。

- ・総会での運営に係る委員の選出を各支部の総会終了後に速やかに事務局へ知らせること。
- ・社団法人日本放射線技師会永年勤続50年表彰に伊藤陸郎事務局長が東京の大会で表彰される。
- ・決算報告は3月31日で締めてからの報告となる。伊藤事務局長より、各支部の助成金については、再度人数と金額の確認を行う。
- ・成人病従事者講習会および支部総会の名称に関して、今後、公益法人として成人病従事者講習会生活習慣病、支部総会 地区協議会へ名称を変更することの提案があり承認された。
- ・6号議案の名誉会員の推戴に関して、該当者がいない事の報告があった。

菅野理事より、ネットワーク委員会から会員専用のページを更新し内容を充実させるため、過去の内容で会務報告等の情報が欠落している部分があるため収集をしたいとの意見があり、鈴木会長より前会長に確認をおこない対応するとの解答があった。

遊佐副会長より、5月6日までに会員のもとへ総会資料をCDにして配布したく、最終発送を4月23日頃の予定であるとの報告があった。(CD作成に関して、1日に200枚の作成が限度で、625名の会員分のCDを作成するのは3日を要するとの苦労話を伺い、あらためて医大スタッフへの感謝をしたい。)

斎藤副会長より、分科会の名称等で会員から疑問の声もあり総務企画委員会で、今後のあり方について検討を行うことの提案があった。

阿部事務局員より、会費納入状況の報告があり、平成20年度・21年度の2年間の福島県放射線技師会会費未納者の取り扱いについて質問があり、鈴木会長から4月末日まで納入されない場合、除名扱いするとの提案があり承認された。

その他

所用で欠席した堀江理事より、生涯教育委員会から臨床実習指導教員の現状把握のアンケート案内の提出があった。

以上の議題が理事会で承認され、16時30分に閉会した。

「全国会長会議」開催される

日本放射線技師会全国会長会議が、去る4月17日(土)、「女性と仕事の未来館」で開催された。

討議事項は下記の内容であった。

1. 報告事項等

- (1) 会員動向ならびに会費納入状況について
- (2) 平成22年度事業計画案について

- ・ 事業計画(案)の骨子
- ・ 事業計画

1. 放射線診療の向上・発展

- 1.1 がん対策推進に関する事業
- 1.2 教育研修施設に関する事業
- 1.3 卒後研修のあり方に関する事業

2. 放射線診療に関する調査・研究

- 2.1 放射線診療の策定・研究に関する事業
- 2.2 診療報酬の評価に関する事業
- 2.3 WHO協力センターとしての事業

3. 放射線診療に関する啓発

- 3.1 医療被ばく対策に関する事業
- 3.2 学術大会の開催に関する事業

4. 医療の安全確保に係る事業

- 4.1 医療安全対策に関する事業
- 4.2 登録定期講習機関としての放射線取扱任者定期講習会開催に関する事業

5. 診療放射線技師の資質の向上

- 5.1 診療放射線技師基礎講習に関する事業
- 5.2 学術誌の発行に関する事業

- 5.3 各種認定に関する事業
- 5.4 海外への診療放射線技師の派遣に関する事業
- 6. その他本会の目的達成に必要な事業
 - 6.1 災害等への対応に関する事業
 - 6.2 広報に関する事業
 - 6.3 調査に関する事業
 - 6.4 無料職業紹介に関する事業
 - 6.5 表彰に関する事業
 - 6.6 教育機関との連携に関する事業
- (3) 平成22年度生涯学習計画
- (4) 公益社団法人に移行に向けての進捗状況
- (5) 第68回定期総会開催について
- (6) 第26回放射線技師総合学術大会について
- (7) その他

「腎障害患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン」の改訂版が日本医学放射線学会・日本腎臓学会の合同委員会から発表される

“腎障害患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン”
改訂のお知らせ(2009年9月2日)

NSFとガドリニウム造影剤使用に関する合同委員会
(日本医学放射線学会・日本腎臓学会)

平成20年7月25日に、NSFとガドリニウム造影剤使用に関する合同委員会(日本医学放射線学会・日本腎臓学会)から、“腎障害患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン”を発表いたしました。その後、当委員会までいくつかのご意見をいただき、また新たな研究結果なども報告されたことにより、一部改訂すべきと考えられる点がでてきました。

今回の改訂における主な変更点は以下の通りです。

1. ガドリニウム造影剤は、本来の目的以外に使用してはならない点を明確にしました。
2. 原則としてガドリニウム造影剤を使用せず、他の検査法で代替すべき病態を明確にしました。
3. 透析症例、GFR が 30mL/min/1.73m² 未満の慢性腎不全症例、あるいは急性腎不全症例で、やむを得ずガドリニウム造影剤を使用する場合における対応を記載しました。
4. 付表を追加し、ガイドライン理解の助けとしました。

なお、本ガイドラインに対するご意見ならびにご質問は、日本医学放射線学会・日本腎臓学会 NSFとガドリニウム造影剤使用に関する合同委員会 (nsfguideline@radiology.or.jp)までお寄せ下さい。

以上

付表

透析患者	急性腎不全患者	慢性腎臓病患者		
		GFR (mL/min/1.73m ²)		
		0-29	30-59	60 ≤
原則としてガドリニウム造影剤は使用しない (やむを得ず使用する場合には、NSF 発症報告の多い造影剤の使用を避ける)			利益と危険性とを慎重に検討し、最少量を使用する	危険性が高いとする根拠には乏しい
		5 or 4	3	2 or 1
CKD stage				

支部だより

会津支部

「会津支部総会および会津画像研究会」開催される
平成22年4月24日(土)、会津支部総会および第74回会津画像研究会が開催されました。

共催をお願いしている第一三株式会社さんとパイエル薬品株式会社さんから、造影剤に関する話題提供および情報提供をいただくところから画像研究会が始まり、次に支部会員の方から研究発表をしていただきました。会津中央病院の小沼慎一郎氏からは「メタストロンの使用経験」、坂下厚生総合病院の穴澤明弘氏からは「CTAにおける下肢動脈描出能向上の試み」、竹田総合病院の篠崎直也氏からは「末梢性動脈疾患治療へのRoadmap機能使用の試み」、県立会津総合病院の長谷川和己氏からは「MRIの金属アーチファクト」と4演題もの発表をいただきました。どの演題も普段の業務の中で素朴な疑問に感じたことや調べたいと思ったことなどの研究の結果であり、今後の自分たちの業務に積極的に取り入れていきたいと感じられる内容の発表でした。



画像研究会終了後は会津支部総会へと引き続き、前年度の事業報告や決算報告、また今年度の事業

計画案や予算案などの報告があり、満場一致で賛同を得られることが出来ました。公益法人として本格的に新たな取り組みが行われる年でもあり、今後の運営に関しても参考となる年になりそうです。

(森谷)

県南支部

「県南支部総会」開催される

平成22年4月21日「県南支部総会」が開催されました。学術講演では白河厚生総合病院の小室敦司先生による「RIを用いた放射線治療」というテーマで講演していただきました。

(本間)

県北支部

「県北支部勉強会」開催される

去る平成22年2月27日「県北支部勉強会」が福島テルサにおいて開催された。今回は福島医大放射線科の宮崎真先生に「電子画像を扱うということ」(読影医の立場から)というテーマで講演をしていただいた。



はじめに電子医用画像の優位点とその未来像について話をされ、「時代は確実にフィルムレスへと移行しフィルム時代のルーチンや画像運用ルールに拘らない姿勢が必要である」と述べられた。またモニター診断にも触れられ、ズーム画像については「2Mモニターでは、端末上でのズームと再構成ズームとの間に臨床画像のレベルでは大きな差はない」という話や、読影医が電子画像をどのように読んでいるかを臨床画像とともに説明していただいた。最後に電子画像を扱う放射線技師に対し講師から「最終表示画面がフィルムに変わるデバイスとなりその品質について担当者は常に責任を持つことが重要である」との話であった。約1時間半にわたる講演であったが時間を感ぜさせない大変に有意義な内容であった。

「第8回 相双画像診断勉強会」開催される
平成22年2月26日(金)南相馬市原町区ロイヤルホテル丸屋において今年最初の勉強会が行なわれた。
今回のテーマは「頭部のMRI検査について」と題しまして(財)脳神経疾患研究所附属総合病院南東北病院放射線科の赤石沢孝先生よりFSE、Echo Trainを使うメリットやEcho Train Lengthの各社の差異などわかりやすく講演をして頂きました。
講演後には意見交換などさまざまな情報交換がなされ有意義な勉強会となった。(村上)

浜 通 支 部

「第8回 相双画像診断勉強会」開催される

平成22年2月26日(金)南相馬市原町区ロイヤルホテル丸屋において今年最初の勉強会が行なわれた。

今回のテーマは「頭部のMRI検査について」と題しまして(財)脳神経疾患研究所附属総合病院南東北病院放射線科の赤石沢孝先生よりFSE、Echo Trainを使うメリットやEcho Train Lengthの各社の差異などわかりやすく講演をして頂きました。

講演後には意見交換などさまざまな情報交換がなされ有意義な勉強会となった。(村上)

「第9回いわき地区勉強会」開催される



平成22年2月23日(火)午後6時30分よりいわき市保健福祉センターにおいて第9回いわき地区勉強会が開催されました。今回は、いわき市立総合磐城共立病院中央放射線室 高橋 誠先生による「マンモグラフィー読影の基礎とカテゴリー判定」をテーマに
1. マンモグラフィー読影の基礎(腫瘍性病変、石灰化病変等のカテゴリー分類の仕方) 2. 各施設より提供

ただいた臨床写真の読影(読影シートを利用したカテゴリー分類実施) 3. 臨床写真読影の解説(各自読影を行った写真について、病理を含めた解説)について懇切丁寧な説明に大変有意義な熱気のある勉強会となりました。(今野)

「平成22年度浜通り支部総会及び学術発表会」開催される
去る4月24日(土)富岡町リフレ富岡にて、第58回社団法人福島県放射線技師会浜通り支部総会及び学術発表会が開催されました。はじめに学術発表が会員7名

「平成22年度浜通り支部総会及び学術発表会」開催される

去る4月24日(土)富岡町リフレ富岡にて、第58回社団法人福島県放射線技師会浜通り支部総会及び学術発表会が開催されました。はじめに学術発表が会員7名

1. 当院に於けるEOB - プリモビストの使用経験
渡辺病院 上田哲幸
2. 当院におけるデンタルCTの現状
小野田病院 鈴木隆文
3. デジタルマンモシステム「AMULET」の使用経験
渡辺病院 中原直人
4. 泌尿器科撮影の基礎2 ~ 臨床応用 ~
いわき泌尿器科病院 高橋豊和
5. PACSの使用経験
いわき市立総合磐城共立病院 石川智大
6. 131 - 放射性ヨード製剤における甲状腺内用療法について
- 福島労災病院のマニュアル手順 -
福島労災病院 今野清志
7. 輝度測定とモニタ管理
いわき市立総合磐城共立病院 櫻村康弘

により行われました。休憩のあと総会に移り執行部より平成21年度の事業報告及び決算報告、平成22年度の事業計画ならびに予算案説明が行われ原案通り可決承認された。特別講演は、「診療報酬改訂に伴う今後の方向性」と題して、日本画像医療システム工業会 経済部会 岩田 貴先生による今回の診療報酬改訂から見えてくる厚生労働省の今後の診療報酬の方向性について興味深い内容で我々にも重要な問題であり熱心に聴講していた。

会終了後には、会員の親睦を深めるべく懇親会が行われ、盛会のうちに全日程を終了しました。(今野)



編 集 後 記

さくら咲く春は異動の季節でもあります。県技師会ニュース会津支部担当の原田 博さん異動により、森谷辰裕(会津中央病院)さんに変更になりました。

今期もアンテナを高くして会員のみなさまへ有益な情報を記事に出来るよう5名で頑張ります。(今野)